



明石市コミュニティ・スクールだより
 人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU
 明石市教育委員会事務局学校教育課

社会に開き 社会とつながり 社会の中で育つ
 子どもも育つ 大人も育つ 学校づくり＝地域づくり
 大人も子どもも “ワンチームで”



昨年 12 月 5 日に松が丘小で開かれた「松が丘サミット」の様子が 1 月 7 日の朝刊の記事になりました。「松が丘サミット」に焦点をあてた記事なのかなと読んでみると、

【『少子高齢化どないする?』小学校は今や、子どもだけの居場所ではない。地域の多世代が集う拠点になりつつある。高齢者同士が支え合う仕組みも動く。昔とはちょっと違った支え合いが、明石市東部の松が丘地区で進んでいる。少子高齢化は避けられないけれど、助け合えば新しいカタチが見えてくる。地元を愛し、活動する人たちの「今」を伝え

ます。大人も子どもも “ワンチームで” という記事の書き出しに心が震えました。また記事の中の児童長の「ラグビーのようにワンチームで助け合う地域に」という言葉にも感動です。

“いい学校はいいまちにある いいまちにはいい学校がある いい学校づくり＝いいまちづくり” と、松が丘コミュニティ・スクールがめざしていく方向性を改めて確認できたような気がします。

また、同じ記事にある『ひまわり会』の取組を読んで、地域の中で行われていることをもっともっと知る必要があり、知っていくことによってまだまだ子どもたちに「未来の創り手となるために必要な資質・能力」を育む場が広がっていく可能性が増えていくと考えます。

松が丘サミットの中で熟議されたことが少しずつ実行されています。こうしたことを経験した子どもたちを中学校にどうつなげていくかという課題があります。取組始めたことが継続され、トライやる・ウィークで子どもたちが地域の中で期間限定の会社を立ち上げて活動するような仕組みができていったら面白いなという夢もあります。先日ケーブルテレビの子ども食堂を紹介する番組でボランティアの方が「ここにきている子どもたちが、大きくなってここにボランティアとして戻ってきてくれたら」という話をされていましたが、そうした仕組みを創っていくのがコミュニティ・スクールなんだろうなと思います。社会とつながった学びは、社会に開かれ、人がつながっていくことで可能になると考えます。しかし、こうした取組が始まると学校の負担が増えるのではという意見もあるかと思えます。学校の負担が増えるのではなく、子どもにかかわってくれる人が増え、子どもに「未来の創り手となるために必要な資質・能力」を育む場が増えるという学校の本務につながります。そうした仕組みを創っていくことは学校のコミュニティ・スクールへのアプローチとしての「社会に開かれた教育課程」を創っていくことにつながると考えます。

また、こうした「松が丘サミット」のような学びはゴールをはっきりさせ、ゴールへの道筋を考え、取組をつないでいくことで、パソコンを使わないプログラミング学習になるのではと考えます。

今までバラバラに考えていたことが、コミュニティ・スクールの取組を始めるといろいろとつながって見えてくるのが面白いところです。

(文責：北本)